

第5回あきる野市環境基本計画市民検討委員会

日 時 令和7年5月2日（金）14:15～16:15
場 所 あきる野ルピア 3階 産業情報研修室
出席者 奥委員長、森副委員長、戸辺委員、鈴木委員、石川委員、柏倉委員
才勝委員、小山委員、平野委員、田中委員、安永委員、柴原委員、
石塚委員
欠席者 青山委員、橋本委員
事務局 環境政策課 山本課長
環境政策係 黒澤係長、三浦主任
環境の森推進係 岸係長
受託事業者 （株）オリエンタルコンサルタンツ（4人）
資 料 第5回あきる野市環境基本計画市民検討委員会 次第
資料1 環境像・分野別方針の考え方について
資料2 重点プロジェクトの考え方と候補案
参考資料1 周辺自治体の環境像一覧
参考資料2 重点プロジェクト他市掲載例

1 開会

2 委員長挨拶

3 議題

（1）環境像・分野別方針について（資料1、参考資料1）

●事務局（環境政策課長）

これより、奥委員長に進行をお願いする。

●委員長

議題（1）について、事務局より説明をお願いする。

●事務局（受託事業者）

（事務局から資料1に沿って説明した。）

●委員

案4が良いと感じた。行動に繋がるフレーズ、危機感を伝えられるフレーズが良い。

●委員

案4が良いと感じた。

案1は、自然と暮らしの両立を「豊かな自然と暮らし」と表現しているが、環境に関する計画であるため、両立ではなく自然の保全を主としたフレーズが良いと考える。

案2は、「環境」からは自然環境だけでなく、都市環境なども幅広くイメージされるため、「自然」という言葉を入れた方が良いと考える。

案3は、各主体の当事者意識を強調するためには、「あなた」ではなく「わたし」を主語に用いた方が良いと感じた。

●委員

多くの人の記憶に残るものが良い。案3について、「あなた」という表現が珍しく、記憶に残ると感じた。後半は、「豊かな環境あきる野」と、簡潔に表現した方が良い。

●委員

案4は、我々委員の想いには近いと感じたが、市民の感覚と離れているのではないかという懸念がある。環境フェスティバルでのアンケートにおいて、市民の感覚を確認したい。

案3は、柔らかい表現で良いと感じた。ただし、「豊かな環境」を「まわす」という表現に違和感があり、「まわす」、「つなぐ」と相性が良い目的語にできると良い。主語は、「あなた」の方が良いと考える。

●委員

案3は、「あなた」より市民目線である「わたし」が良いと感じた。

案4は、インパクトがあり良いが、「知ろう！行動しよう！」は不要であると

感じた。

●委員

案４の「知ろう！行動しよう！」にインパクトがあり良いと感じた。一人一人が実際に行動しなければいけないこと、自分たちの生活が自然環境や気候変動に繋がっていることを伝える必要がある。

●委員

案１は、端的で分かりやすく良いと感じた。あきる野の自然が大切であることはもちろんだが、その自然の上にある人の暮らしも重要な視点であると考え。また、短いフレーズの方が分かりやすいため、サブタイトルは無い方が良い。

●委員

案４が良いと感じた。子どもへ「知ろう！行動しよう！」と呼びかけると、何をという疑問が湧いて、考えたり行動したりすると思う。また、子どもたちと河川の清掃活動を行っている中で、子どもは、マイクロプラスチックなどの地球規模の話についても関心を持ってくれる。そのため、「地球の危機」という表現を、子どもたちは受け取ってくれると考える。

●委員

案４が良いと感じた。あきる野の象徴である「秋川渓谷」を入れると、川や自然も表現できると感じた。また、「みんなで防ぐ地球の危機」という表現は、必ずしも必要ではないと考える。

●石川委員

自分が関わる余白があるような表現が良いと考える。

案２の「みんなで守り受け継ぐ」という表現が良いと感じた。

●委員

あきる野市が将来どのような状態になっているかをイメージできる、案２が良いと感じた。案４は、計画策定の目的を示しており、将来のあきる野市のあるべき姿を示す環境像には適さないと考える。

●副委員長

案１または案４が良いと感じた。

案１は、「豊かな暮らし」が生活の豊かさや家計の豊かさなどを連想させ、曖昧な表現であるため避けた方が良いと感じた。

案２は、「色彩躍る」という表現が過剰であるように感じた。

案３は、環境像から、背景にある考え方を読み取ることができない。

案４は、「地球の危機」を、今後10年の計画期間における大きな課題である「気候変動」とした方が良いと感じた。

●委員長

環境像は、案１や案２のような将来の環境の状態を示すものが一般的であるが、案３や案４のように人々の行動によって望ましい環境が実現されている姿を示すものでも良い。

案２の「色彩躍る」はどのようなことを意図しているか。

●事務局（環境政策課係長）

「色彩躍る」は、あきる野の四季折々の風景や、五日市線沿いに東から西にかけて変化する風景を表現している。また、都内では自然が多く残っており、あきる野を故郷のように感じる人が多いと考え、「故郷（まち）」という表現を用いた。

●委員長

ここまでの議論を踏まえ、案２、３、４を候補とするがいかがか。

●会場

異議なし

●事務局（受託事業者）

案２について、ご意見いただいたように「環境」を「自然」とし、その上で意図が伝わるようにサブタイトル等の表現を事務局で検討したい。

案３について、「あなた」と「わたし」のいずれとするかを議論いただきたい。

●委員

既に行動している人や行動しようとしている人にとっては「わたし」であるが、多くの人にとっては「あなた」の方が、インパクトがあると思う。

●委員長

「あなた」とするがいかがか。

●会場

異議なし。

●委員

後半を、「豊かな自然と共にある暮らし」としてはどうか。

●委員長

案２の後半については、「豊かな自然と共にある暮らし」を基本とし、あきる野をどこに付けるかなど、事務局で検討いただきたい。

●委員

当初、案４の「地球の危機」は大袈裟であると感じていたが、みなさんの意見を聞いて、目指す先を示すフレーズとして良いと思った。

●委員長

案４は、原案を環境フェスティバルに提示する候補案とする。

このほか、分野別方針に対して意見はあるか。

●委員

環境像では、自然を守るとしているが、分野別方針では「自然を再興」と表現している。再興は壊れたものを作り直すという意味であるため、「守り育てる」などの言葉にした方が、環境像との一貫性が出て良い。

●副委員長

再生というのは壊れているものを取り戻すという意味である。自然は弱っている部分はあるが完全に壊れてはいないため、「保全と創出」という表現が適していると思う。

●委員

再生するという意味を込めるために、再興という表現を用いるのが良いと思う。

気候変動対策分野について、「柔軟に適応」とあるが、気候変動への適応であることが分かりにくいと感じた。

人の活動分野について、主語は行政と市民・事業者のいずれにすべきか。いずれの場合においても、主語を明確にした方が良いと感じた。

●副委員長

生活環境・資源循環分野について、「資源が循環する」ことだけが「快適なまち」ではないと思うため、区切った方が良い。

市街地の緑化について、いずれかの分野に記載いただきたい。

●委員

武蔵引田駅周辺の区画整理地では、庭などの緑が少ない。このような緑が不足した開発が今後行われないう、緑化に関する市の方針を示す必要がある。

●委員長

事務局は、分野別方針のフレーズまたは文章に、緑化の視点を追加いただきたい。

(2) 重点プロジェクトの考え方と候補案について(資料2、参考資料2)

●委員長

議題(2)について、事務局より説明をお願いします。

●事務局(受託事業者)

(事務局から資料2に沿って説明した。)

●委員

No.3について、山間部や秋川への不法投棄を防ぐための啓発や、具体的な対策を追記いただきたい。

●委員長

No.3について、3Rが5Rになったことは新たな点であるが、取組内容は普及啓発が中心であり、重点プロジェクトとしては弱いと感じた。

●委員

重点プロジェクトは分野を横断していることが特徴だと思うが、いずれの分野にも収まらないものを重点プロジェクトに記載するということか。

●事務局(受託事業者)

各分野の施策の中から、効果が分野横断的な取組や多くの主体の協働による取組などを抜き出して、重点プロジェクトとして位置付ける。そのため、重点プ

プロジェクトの取組は、各分野の施策にも記載されることになる。

●委員

No. 1、2、4について、1つのプロジェクトの中に複数の要素が入っており、違和感があった。No. 1では獣害対策と生物多様性、No.2では林業推進と森林の生物多様性、No. 4では河川環境改善と空き家解消が含まれている。

No. 2について、森林整備は森林の機能を維持することが目的である一方、林業は材木を得ることを目的としており、異なるものである。重点プロジェクトでは、森林の生物多様性の保全を目的とし、林業の推進においても生物多様性の保全へ配慮するという記載が良いと考える。

●事務局（受託事業者）

1つのプロジェクトの中に関連性が低い要素が入っているものについては、市民の方に分かりづらいものにならないように見直す。また、森林の生物多様性の保全についても、取組の内容を整理する。

●副委員長

東京都は、スギを伐採して、広葉樹や花粉の少ないスギへの植え替えを進めている。市としては、このような都の取組を推進するのか、他の取組を推進するのか方針を示す必要がある。

●委員

森林レンジャーあきる野が、スギが皆伐される前に希少種の移植を行っている。このような取組が生物多様性の保全には重要である。

●委員長

優先度が高い取組を重点プロジェクトとして位置付けるため、市として何に力点を置くのかを明確にする必要がある。林業の活性化による森林整備の推進を目指すのか、生物多様性の保全を目的とした森林整備の推進を目指すのか、No. 1とNo. 2のすみ分けについて、検討いただきたい。

●副委員長

No. 1の対象を里山に限定せず、市街地も対象とする必要がある。また現在、市ではクビアカツヤカミキリやオオブタクサの駆除に注力しているが、被害は

拡大傾向にある。現状、課題の解決に至っていない取組を重点化する必要がある。

●委員長

生物多様性の保全の中に外来種対策も含まれる。重点プロジェクトの取組を幅広に設定するか、現状の課題を特筆して設定するかについて、事務局にて検討いただきたい。

●委員

重点プロジェクトで、今後の観光客のあり方を示したい。No. 4 の河川での BBQ 等によるごみの問題や No. 6 の観光客の公共交通利用促進が関連する。

また、No. 7 は実現可能性が高いものだと思うが、これまでの発信の方法では、環境保全の取組が十分に浸透しないため、市民の行動に繋げていくためには、発信の方法を改善する必要がある。

●委員

河川における BBQ によるごみについて、組合員で清掃を行っている状況である。

●副委員長

弁天山の散策路や秋川沿いの遊歩道など、気軽に自然を感じられる場所に、分かりやすい標識などを設置し、人が入ることでごみ投棄の抑止力になると考えられる。

●委員

秋川流域で環境を汚さないレジャーをし、それを SNS で発信することで次回来た際に割引を得られるなど、市が秋川流域の環境を大切にしていることを観光の宣伝材料やブランディングに繋がられると良い。

●委員

観光で 1 つの重点プロジェクトを設定する必要があるほど、あきる野にとって重要な問題であると思う。

●委員

秋川の河川敷ではごみを捨てないということを、行政が指導し観光客の意識を変えていく必要がある。

また、上流で捨てられたレジ袋が下流へ流れていくという問題もある。

●委員長

観光に関する取組について、新たなプロジェクトを設定するか、いずれかのプロジェクトへ組み込むかなど検討いただきたい。

●委員

No. 5 について、東京都の「太陽光発電及び蓄電池グループ購入促進事業」は、活用のハードルが高くなっている。よりローカルに取り組むことができる内容にできると良い。また、エネルギー消費の削減に向けて、発電だけでなく、熱の利用の視点についても追記いただきたい。

●委員長

事務局は、本日の意見を踏まえて引き続きの検討をお願いする。

5 その他

●事務局（環境政策課係長）

別途ご連絡している第6回市民検討委員会の日程について、回答いただきたい。

6 閉会（副委員長）